取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

AVENSIS

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

1
2
3
4
5
6

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

6-2. カスタマイズ機能

さくいん

外観

ドアミラー P. 61
フロントワイパー P. 144
ボンネット P. 213
サイド方向指示灯
P. 120
ヘッドランプ P. 138
フロント方向指示灯 P. 120
車幅灯 P. 138
フロントフォグランプ* P. 142

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

運転席 SRS エアバッグ P. 73
シートベルト P. 54
ヘッドレスト
P. 52
助手席 SRS
エアバッグ P. 73
A
B
ITIPY102
グローブボックス
P. 179
フロアマット P. 193
フロントシート P. 48
SRS サイドエアバッグ P. 73
リヤセンターアームレスト
P. 190
カップホルダー P. 182
リヤシート P. 50
コンソールボックス P. 180
アクセサリーソケット P. 189
カップホルダー P. 182

インナーミラー P. 59
小物入れ P. 181
インテリアランプ／
パーソナルランプ P. 176
ITIPI064
アシストグリップ P. 192
SRS カーテンシールドエアバッグ
P. 73
バニティミラー P. 186
サンバイザー P. 185

A
ウインドウロックスイッチ P. 63
ドアロックスイッチ P. 38
ロックレバー P. 38
ITNPY048
パワーウインドウスイッチ P. 63

B

セキュリティインジケーター P. 70

シフトレバー P. 115

SECURITY PASSENGER

SHIFT LOCK

P R N D M + -

SPORT

ITNPY049a

カップホルダー P. 182

スポーツモードスイッチ P. 116

灰皿 P. 187

シガレットライター P. 188

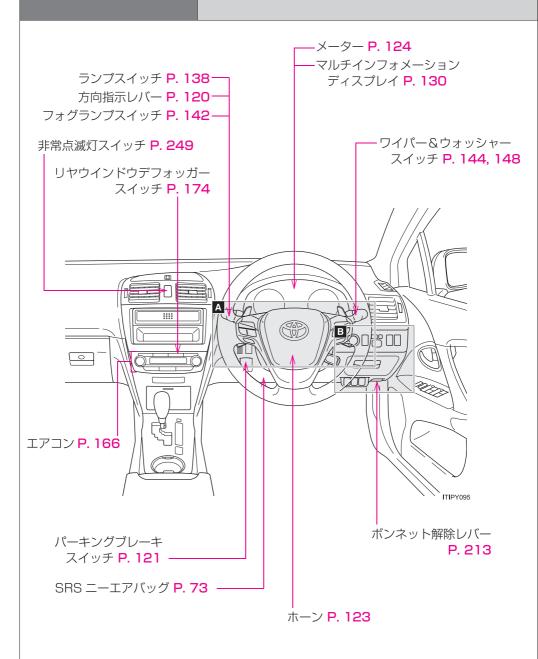
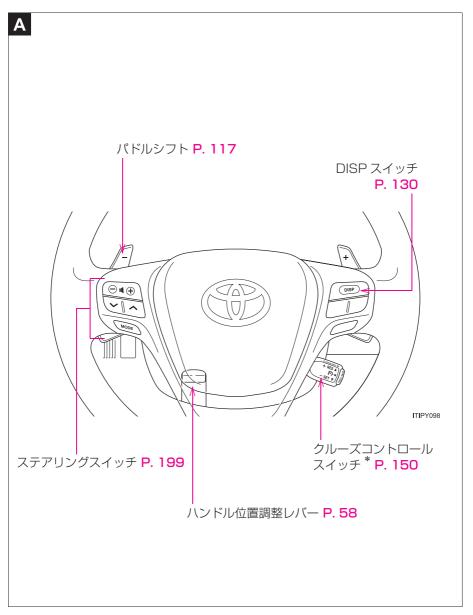
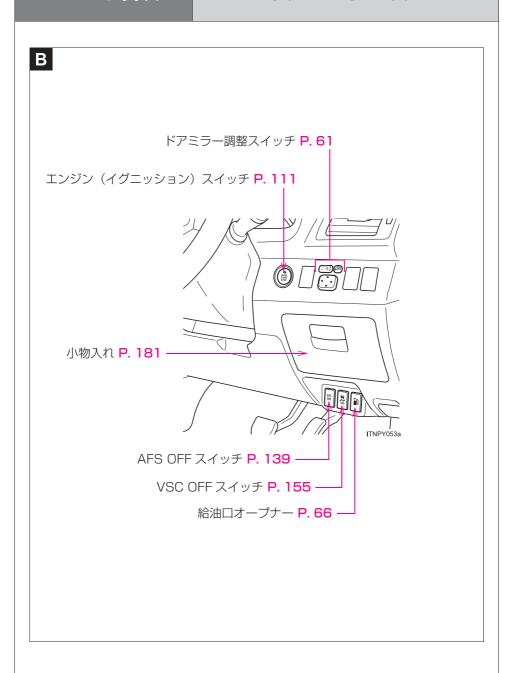
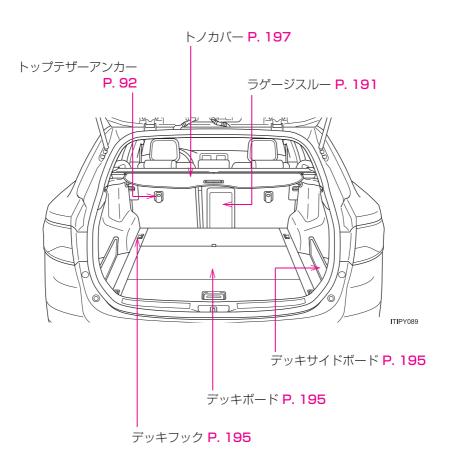
インストルメントパネル

A

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
ドアミラー調整スイッチ P. 61
エンジン（イグニッション）スイッチ P. 111
小物入れ P. 181
ITNPY053a
AFS OFF スイッチ P. 139
VSC OFF スイッチ P. 155
給油口オープナー P. 66

ラゲージルーム

トノカバー P. 197
トップテザーアンカー
P. 92
ラゲージスルー P. 191
ITIPY089
デッキサイドボード P. 195
デッキボード P. 195
デッキフック P. 195

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 92)をお読みください。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

· エンジン回転数
· アクセルの操作状況
· ブレーキの操作状況
· 車速
· シフトポジション

グレード·オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断·研究開発·品質の向上を目的に取得·利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

· お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
· 警察·裁判所·政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
· 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています)

本書の中の表示について

警告・注意・知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

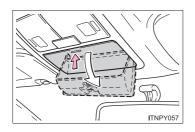
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

キー

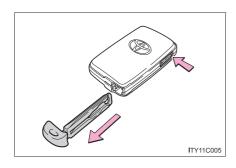
お客様へ次のキーをお渡しします。

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 24）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 36）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときや、スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 292）

知識

■駐車場などでキーを預けるときは

グローブボックスを施錠します。(→P. 179)
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 291)

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

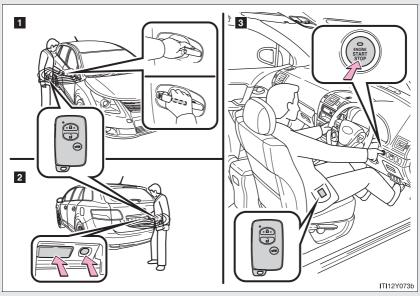
- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所に置いたり、ぬらしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- キーを分解しないでください。

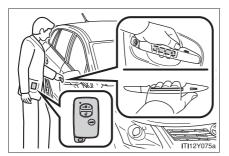
■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

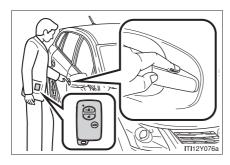
- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

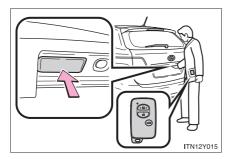
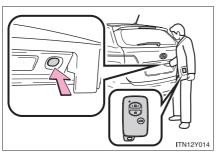
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。
（必ず運転者が携帯してください）

1 ドアを解錠・施錠する　（→P. 25）
2 バックドアを解錠・施錠する　（→P. 26）
3 エンジンを始動する　（→P. 111）

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

ハンドルを握って解錠する

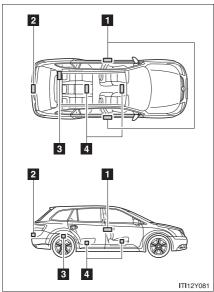
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後３秒間は、解錠できません。

ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

バックドアの解錠・施錠

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

ロックスイッチを押して施錠する

バックドアを開閉して車両を離れるときは、必ず施錠してください。バックドアを閉めても自動的に施錠されません。

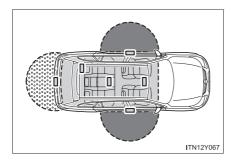
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 ラゲージルーム外アンテナ

3 ラゲージルーム内アンテナ

4 車内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

：ドアの施錠・解錠時

フロントドアハンドルから周囲約70 cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：エンジン始動時、またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

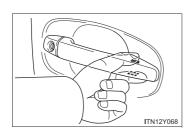
：バックドアの施錠・解錠時

バックドアハンドルから周囲約70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ドアハンドル上側ロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。
(対処方法：→P. 292)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

● 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき

・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・ デジタルオーディオプレーヤー
・ ポータブルゲーム機器

● リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ 節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、次の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

● 5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

● 車両の外約 1 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

次のいずれかを行うと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

● ドアハンドルのロックセンサー部にふれて施錠する

● ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 36）

● メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 292）

■ 電池の消耗について

● 電池の標準的な寿命は１～２年です。（電子キーを使用しなくても電池は消耗します）スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P. 239）

● 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 34）

● 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ ＴＶ
・ パソコン
・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・ 電気スタンド
・ 電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内(検知エリア内)にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・バックドアの施錠・解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・エンジン始動時またはモード切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・トノカバーなどの上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ約30 秒後に自動的に施錠されます)

●電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠/解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して、洗車等をしてください。(キーの盗難に注意してください)

●車内に電子キーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します)

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとにもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P. 264）

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車内から“ポーン”と1回鳴る 車外から“ピー”と10秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずに、電子キーを外に持ち出してドアをスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と10秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーをP以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーをPにしてください。

警告音	状況	対処方法
車内・車外から“ピー”と鳴り続ける	“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードまたはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを閉めた	シフトレバーを P に入れ、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
車内から“ポーン”と 1 回鳴る	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください。（→P. 239）
	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンを始動しようとした	電子キーを携帯してエンジンを始動してください。※
車内から“ピー”と 1 回鳴る 車外から“ピッ・ピッ・ピッ”と 3 回鳴る	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに電子キーを外に持ち出して運転席ドアを閉めた	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、再度運転席ドアを閉めてください。
	“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF になっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを閉めた	電子キーを車内にもどしてください。

※電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。（→P. 292）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠・解錠：→P. 292

●エンジンの始動：→P. 292

■電池が切れたときは

→P. 239

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 310)

警告

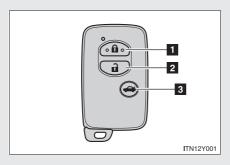
■電波がおよぼす影響についての警告

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、車内アンテナ・車外アンテナ（→P. 27）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

3 バックドアを解錠する

バックドアを開閉して車両を離れるときは、必ず施錠してください。バックドアを閉めても自動的に施錠されません。

知識

■作動の合図

非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■電池の消耗について

→P. 30

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

ドアの施錠・解錠:→P. 292

■電池が切れたときは

→P. 239

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 29

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧:→P. 310)

ドア（フロントドア・リヤドア）

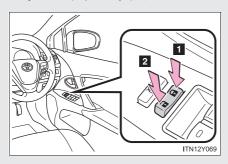
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

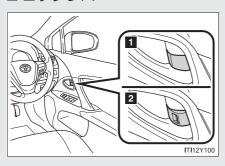
→P. 25

■ ワイヤレス機能

→P. 36

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

フロント席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

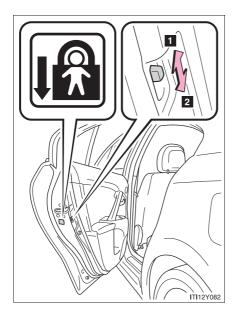
キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

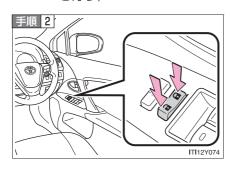
次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
車速感応オートロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。※
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

※ 1 回作動すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にするか、ドアを開閉するまでは再度作動しません。

■ 設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

手順 1 すべてのドアを閉め、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションONモードにする（その後 10秒以内に 手順 2 を行う）

シフトレバーを P または N に入れ、ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次ページの表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順で行います。

機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	🔒
シフト連動オートアンロック		🔓
車速感応オートロック	N	🔒
運転席ドア連動オートアンロック		🔓

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 292)

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、フロント席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

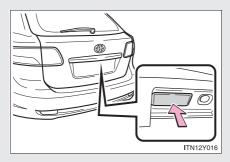
■ バックドアの施錠・解錠

▶ スマートエントリー＆スタートシステム
→P. 26

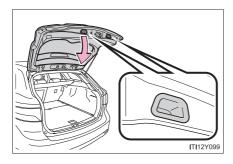
▶ ワイヤレス機能
→P. 36

▶ ドアロックスイッチ
→P. 38

■ バックドアを開けるには

ITN12Y016

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアを閉めるときは

ITI12Y099

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

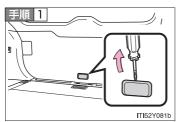
引き下げるときに横方向に力をかけないでください。

知識

■ラゲージルームランプ

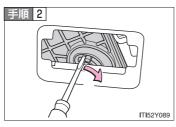
バックドアを開けるとラゲージルームランプが点灯します。

■バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。

バックドア内側のカバーをはずす

傷付き防止のため、テープなどを巻いたマイナスドライバーを使用してください。

レバーを押す

警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアにはり付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

ITI12Y078a

●半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

ITI12Y079

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

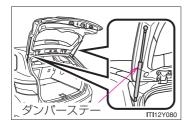
●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

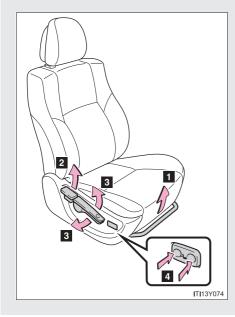
警告

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■**ダンパーステーについて**

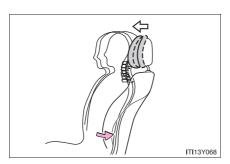
バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

4 腰部硬さ調整*（運転席のみ）

アクティブヘッドレスト

追突の衝撃によって、乗員の背中がシートバックを押すことで、ヘッドレストが少し前方に動き、乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■アクティブヘッドレストについて

シートバックへの衝撃が弱い場合でもアクティブヘッドレストが作動することがありますが、故障ではありません。

警告

■シート調整について

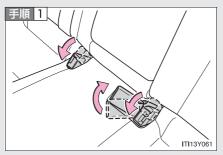
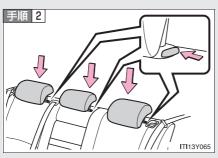
●シートを操作するときは、他の乗員や荷物にぶつからないように注意してください。

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

リヤシート

リヤシートは前倒しすることができます。

■ 前倒しする前に

シートベルトのバックルを格納する

解除ボタンを押しながらヘッドレストを下げる

■ 前に倒すときは

レバーを引いてロックを解除し、背もたれを倒す

⚠警告

■背もたれを前倒しするときは

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

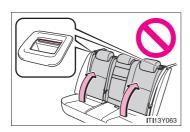
●走行中に前倒しをしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰの位置にする

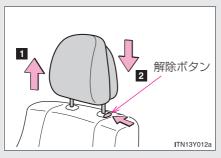
●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとの位置にもどすときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

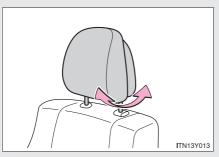
シートが確実に固定されていないときは、レバー部に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

●シートベルトを挟み込まないようにする

ヘッドレスト

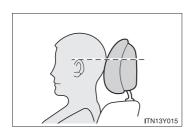
上下調整

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

前後調整（フロントシート）

知識

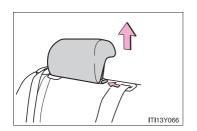
■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げてください。

■フロントヘッドレストを取りはずすときは

トヨタ販売店にご相談ください。

■リヤヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながら取りはずします。

⚠警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

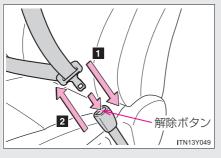
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

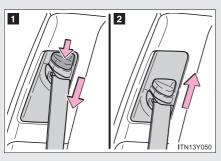
- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

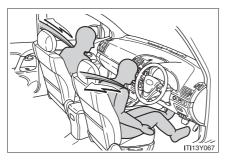
■ 着け方・はずし方

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンションナー（フロント席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 83)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 54)

■シートベルトプリテンショナーについて

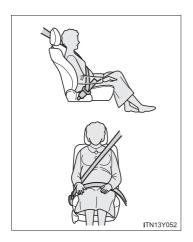
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 54)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しい着用をしてください。

⚠ 警告

■**お子さまを乗せるときは**

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

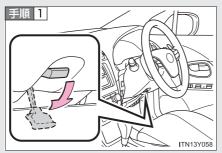
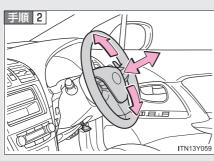
●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

■走行中の警告

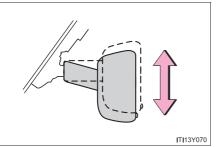
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

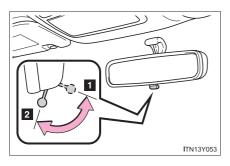
インナーミラー

座った姿勢に合わせて、後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた（自動防眩ミラー装着車）

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

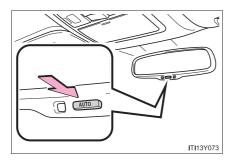
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

1 通常使用時

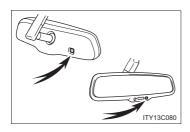
2 防眩時

▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON/OFF

ONのときはインジケーターが点灯します。
“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能がONになっています。
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。

知識

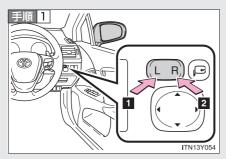
■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

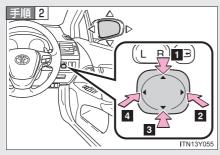
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

ミラーを選ぶ

1 左

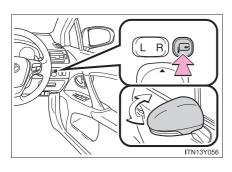
2 右

スイッチを操作してミラーの鏡面を調整する

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P. 174)

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
- 必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

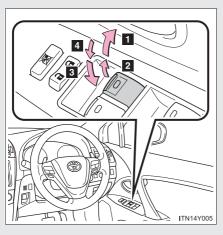
■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

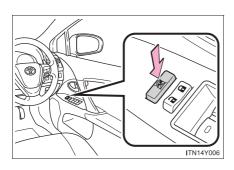
スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 自動全閉※

2 閉める

3 自動全開※

4 開ける

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだにフロントドアを開くと作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

車を停止し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ITI14Y007

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

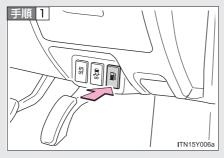
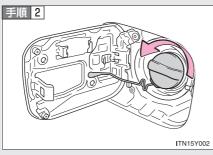
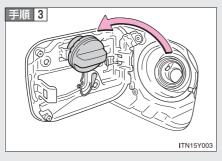
給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

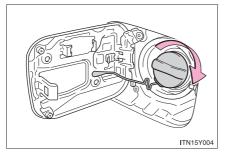
■ 給油する前に

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にして、ドアと窓を閉めてください。

● 燃料の種類を確認してください （→P. 67）

■ 給油口の開け方

給油口オープナーを押して、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

ITN15Y004

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

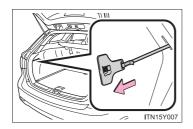
手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■車内のスイッチで給油口が開かないときは

ITN15Y007

緊急用レバーを車両後方に引いてください。（横に引かないでください）

バッテリーがあがったときなど、車内の給油口オープナーを押しても給油口が開かないときにご使用ください。

⚠ 警告

■給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。

・給油口にノズルを確実に挿入する
・継ぎ足し給油をしない

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■給油するときは

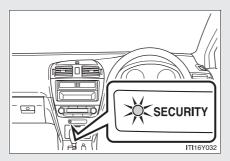
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- ●エンジンの始動性が悪くなる
- ●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ●エンジン出力が低下する
- ●排気制御システムが正常に機能しない
- ●燃料系部品が損傷する
- ●塗装が損傷する

■緊急用レバーの損傷を防ぐために

- ●必要以上の力で引かないでください。
- ●緊急時以外は使用しないでください。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われている

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 48）
2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 48）
3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 48）
4 SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 58）
5 ヘッドレストの中央を耳のいちばん上あたりになるようにする（→ P. 52）
6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 54）

⚠ 警告

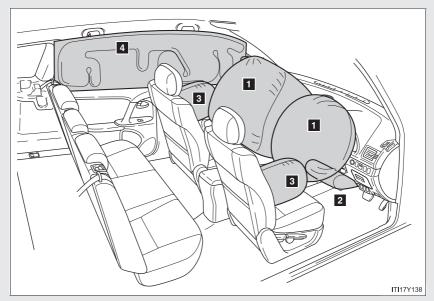
■走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

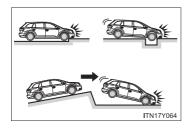
●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

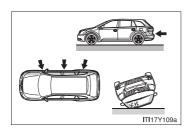
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

ITN17Y064

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

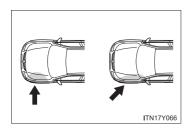
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

ITI17Y109a

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

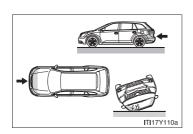
■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

ITN17Y066

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

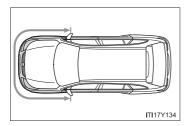
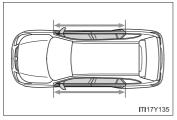
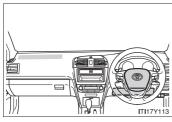
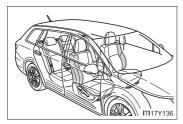
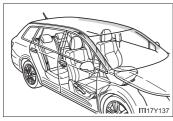
ITI17Y110a

●前方からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、修理・点検が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

●ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

● SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

● SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がSRSエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→P. 92)

ITN17Y072

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

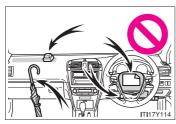
ITN17Y073

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

■SRS エアバッグについて

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

警告

■SRS エアバッグについて

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0　：10kg まで
グループ 0^+　：13kg まで
グループ Ⅰ　：9 ～ 18kg
グループ Ⅱ　：15 ～ 25kg
グループ Ⅲ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ITN17Y078

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

▶ チャイルドシート

ITI17Y101

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

▶ ジュニアシート

ITI17Y102

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着席位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">リヤシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ
（9 ～ 18kg）</td><td>前向き UF</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">U</td></tr>
<tr><td>うしろ向き ×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
（15 ～ 25kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>U</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
（22 ～ 36kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>U</td></tr>
</table>

● 上表に記入する文字の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

× ：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+}（ 13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 85）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 86）を確認して、適切なシートを選択してください。

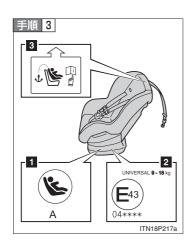
手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
（例 2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

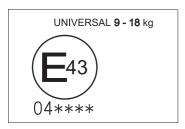
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 87）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

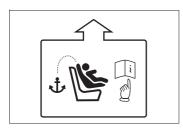
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 92）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げる

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

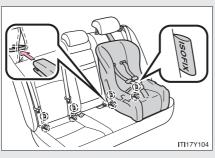
警告

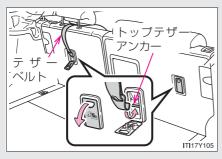
■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。

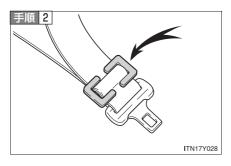
シートベルトによる取り付け
(→ P. 93)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 94)

リヤシートの外側席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

トップテザーアンカー
(→ P. 94)

テザーベルトを固定するときに使います。トップテザーアンカーは、リヤ外側シートに装備されています。

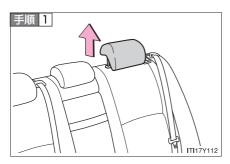
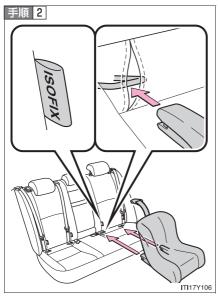
シートベルトで固定する

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

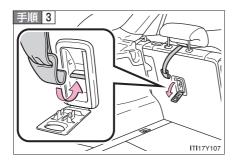
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

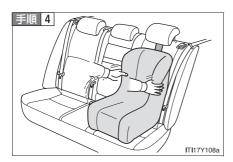
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

ヘッドレストを上げる

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションと背もたれのあいだにあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシート付属の取り扱い説明書に従ってください。

フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認する

警告

■**チャイルドシートについて**

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

ITN17Y096

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

ITI17Y139

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。

ITN17Y097

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席をいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

⚠ 注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくと、フタが破損するおそれがあります。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ランプのつけ方、ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 111

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 115）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 121）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P. 121）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 115）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 121）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 115）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

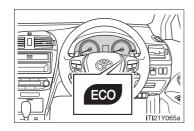
■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを、樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■走行中のエンジン回転数について

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。
次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトレバーが D 以外のとき

●走行モードがスポーツモードのとき（→P. 116）

●パドルシフトを操作したとき

警告

■**発進するときは**

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になる他、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

警告

- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 302を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 117）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。
パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所では、エンジンを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 注意

■運転中は

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 276 を参照してください。

⚠ 注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチのモードを切りかえることができます。

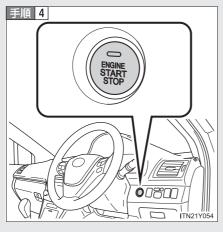
■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

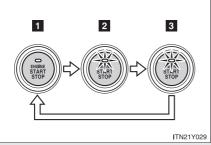
手順 4

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■“エンジン スタート ストップ”スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

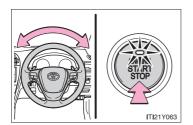
すべての電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

知識

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 70)
トヨタ販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックが解除できないときは

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右に動かしながら、再操作してください。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが自動で OFF になります。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 30

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 292

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 29

■ご留意いただきたいこと

→P. 31

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、“エンジン スタート ストップ”スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P. 302)
ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

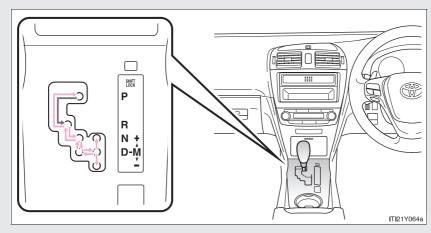
エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

トランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

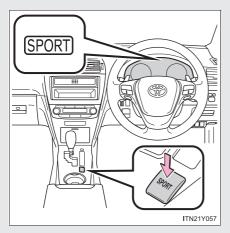
■ シフトレバーの動かし方

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

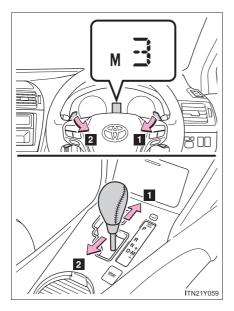
シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 （→P. 117）

※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

■ 走行モードの選択

スイッチを押すとスポーツモードになります。

メーター内のスポーツモード表示灯が点灯します。パワフルな運転や山間地などの走行に適しています。もう一度スイッチを押すと通常走行モードにもどります。

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーまたはパドルシフトを次のように操作できます。

1 シフトアップ

2 シフトダウン

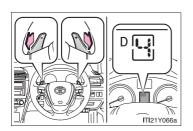
知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時の自動変速について

変速段を固定して走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、現在の変速段から自動的に 1 段シフトアップ、またはシフトダウンされます。

■一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードについて

シフトレバーを D の位置で走行中、パドルシフトを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション・シフトレンジ表示の D が点灯し、変速段が表示されます。

一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードは次の状態になると解除されます。

●パドルシフトのシフトアップ側を一定時間以上押し続けたとき

●車両停止状態のとき

●同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、操作してもシフトダウンできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■スポーツモードの自動解除について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にすると、スポーツモードは解除されます。

■クルーズコントロールを使って走行しているとき*

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、クルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●D、M ポジションで走行中に 6・5 または 4 にシフトダウンしたとき
(→P. 117)

●D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき
(→P. 116)

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 287

■シフトレバーを M にしても、シフトポジション・シフトレンジ表示の “ M ” が点灯しないときまたは点滅したときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■M ポジションで走行中に停車したときは

●停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。

●停車後、走行するときは M1 からの発進となります。

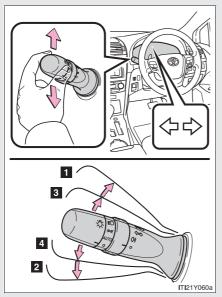
警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 右折

2 左折

3 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

4 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかけるにはスイッチを押す

スイッチを押すと表示灯が点滅し、パーキングブレーキがかかると点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

2 パーキングブレーキを解除するにはスイッチを引く

知識

■パーキングブレーキの解除について

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モード以外のときは、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■システムの過熱について

短時間に操作をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。しばらく操作を控えると、もとの状態にもどります。

■システムに異常があるときは

電子制御ブレーキ警告灯が点灯または点滅します。（→P. 261）

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 262

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 162

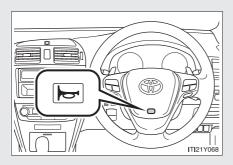
⚠注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

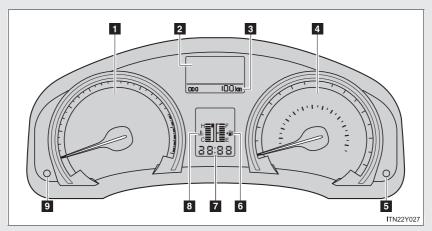
パーキングブレーキ解除ツールを使用して、パーキングブレーキを完全に解除してください。（→P. 288）
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの［ホーンマーク］周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 58）

計器類

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。(→P. 130)

3 オドメーター／トリップメーター

オドメーター：走行した総距離を表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 DISP ボタン／メーター照度調整スイッチ

押す：マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえます。

まわす：メーターの照度調整ができます。（→P. 126）

6 燃料計

燃料残量を示します。

7 時計

時刻を表示します。

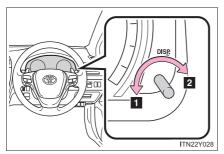
8 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

9 表示切りかえ／トリップメーターリセットボタン

オドメーター／トリップメーターの切りかえができます。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。

メーター照度調整

車幅灯が点灯しているときは、メーター照明の明るさを調整できます。

1 暗くなる

2 明るくなる

知識

■メーター照明の減光制御について

ランプスイッチを ON にすると、メーター照明が減光されます。メーター照度調整スイッチを右いっぱいまでまわすと、ランプスイッチを ON にしても明るさは切りかわりません。

注意

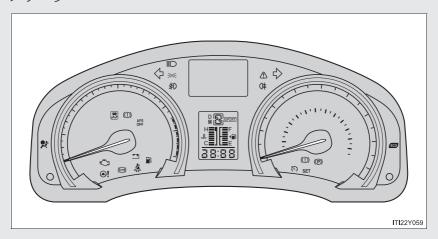
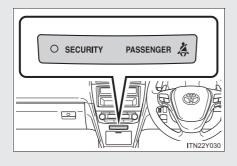
■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の表示が上端まで達したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P. 297)

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯／警告灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。

▶ メーター

▶ センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→P. 120）

尾灯表示灯（→P. 138）

ハイビーム表示灯
（→P. 139）

フロントフォグランプ表示灯*（→P. 143）

リヤフォグランプ表示灯
（→P. 142）

スポーツモード表示灯
（→P. 116）

※
AFS
OFF

AFS OFF 表示灯
（→P. 139）

※
（点灯または速い点滅）

スリップ表示灯
（→P. 155）

※
エコドライブインジケーターランプ（→P. 102）

セキュリティインジケーター
（→P. 70）

クルーズコントロール表示灯*（→P. 150）

クルーズコントロールセット表示灯*
（→P. 150）

パーキングブレーキ表示灯
（→P. 121）

シフトポジション・シフトレンジ表示
（→P. 115）

※ 作動確認のために“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 260)

※ 作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

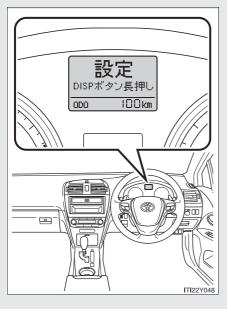
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

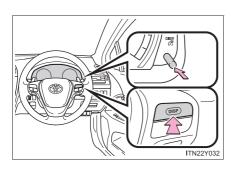
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温・時刻や走行に関するさまざまな情報を表示します。

ITI22Y048

- トリップインフォメーション
  航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。
- 日付
  日付が表示されます。
- 外気温度表示（→P. 131）
- 警告メッセージ（→P. 264)
  各システムに異常が発生すると自動で表示されます。
- 表示設定（→P. 134）

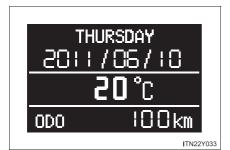
表示切りかえ

ITN22Y032

表示を切りかえるには、DISP ボタン（メーター部）、または DISP スイッチ（ハンドル部）を押します。

DISP スイッチは販売店オプションのナビゲーションシステムまたはオーディオを装着した場合に操作可能です。

表示項目

■ 日付／外気温度表示

ITN22Y033

日付と外気温度を表示します。

外気温度は－40℃から50℃の範囲で表示します。

■ 瞬間燃費

ITN22Y034

現在の瞬間燃費を表示します。

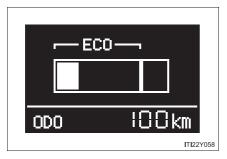
■ 平均燃費

ITI22Y047

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンまたは DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

ITI22Y058

環境に配慮したアクセル操作の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。

■ 航続可能距離

ITI22Y050

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
  給油の際は“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてください。万一、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ 平均車速

ITN22Y037

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中にDISPボタンまたはDISPスイッチを1秒以上押し続けます。

■ 走行時間

ITN22Y038

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に DISP ボタンまたは DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。

表示設定のしかた

■ 設定する前に

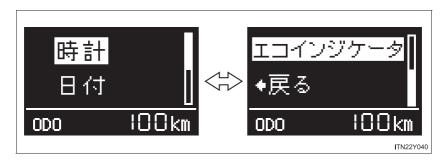
手順 1 車両を停止する

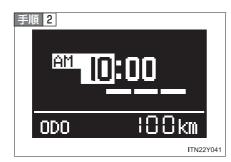
手順 2

ITN22Y039

DISP ボタンまたは DISP スイッチを押して、設定画面を表示選択し、再度 DISP ボタンまたは DISP スイッチを押し続ける

手順 3 DISP ボタンまたは DISP スイッチを押して設定を変更したい項目を選択し、再度 DISP ボタンまたは DISP スイッチを押し続ける

ITN22Y040

■ 時刻の設定

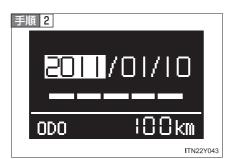
手順 1 “時計”を選択し、DISP ボタンまたは DISP スイッチを押し続ける

DISP ボタンまたは DISP スイッチを押して“時”を調整する

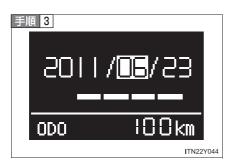
バーが消えるまで約５秒間放置し、希望の“時”に設定されたか確認してください。

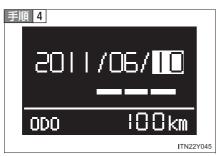
DISP ボタンまたは DISP スイッチを押して“分”を調整する

バーが消えるまで約５秒間放置し、希望の“分”に設定されたか確認してください。

■ 日付の設定

手順 1 “日付”を選択し、DISP ボタンまたは DISP スイッチを押し続ける

DISP ボタンまたは DISP スイッチを押して“年”を調整する

バーが消えるまで約５秒間放置し、希望の“年”に設定されたか確認してください。

DISP ボタンまたは DISP スイッチを押して“月”を調整する

バーが消えるまで約５秒間放置し、希望の“月”に設定されたか確認してください。

DISP ボタンまたは DISP スイッチを押して“日”を調整する

バーが消えるまで約５秒間放置し、希望の“日”に設定されたか確認してください。

■ エコドライブインジケーターランプの表示設定

手順 1 “エコドライブインジケータ”を選択し、DISP　ボタンまたは DISP スイッチを押し続ける

ON/OFF を選択し、DISP ボタンまたはDISPスイッチを押し続ける

この設定はエコドライブインジケーターゾーン表示の ON/OFF ではありません。

■ 前の画面にもどるには

“戻る”を選択し、DISP ボタンまたは DISP スイッチを押し続けます。

知識

■エコドライブインジケーターゾーン表示について

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。
アクセルの踏みすぎなど、エコ運転の範囲をこえた場合には、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点滅します。
また、次の場合は表示されません。

- ●シフトレバーが D の位置以外のとき
- ●走行モードがスポーツモードのとき
- ●シフトレバーが D の位置で走行中、パドルシフトを操作したとき

■外気温度表示について

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・停車しているときや、低速走行（約 20 km/h 以下）のとき
- ・外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

●“--”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

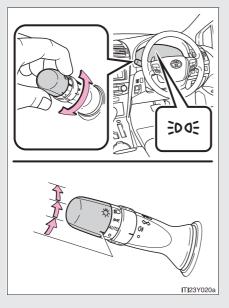
ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

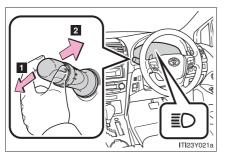
注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

- 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯
- 上記ランプとヘッドランプを点灯
- AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを同時に自動点灯・消灯（“エンジン スタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき）

ハイビームにする

1 ランプ点灯時、ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

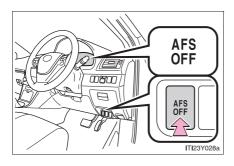
2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）

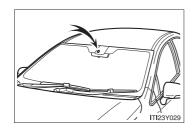
AFS は交差点やカーブの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには

スイッチを押す

AFS OFF 表示灯が点灯します。

知識

■ライトセンサー

センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能

- ランプスイッチが AUTO の位置にあるときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプと尾灯が消灯します。
  再びランプを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。
- ランプスイッチが の位置にあるときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、または OFF にすると、ヘッドランプのみ消灯します。
  再びヘッドランプを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたは OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P. 310)

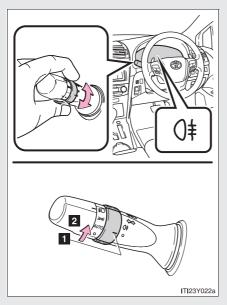
注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ

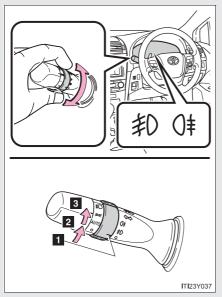
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプ装着車を除く

1 消灯する

2 リヤフォグランプが点灯する

手を離すと、 O の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。

▶ フロントフォグランプ装着車

1 消灯する
2 フロントフォグランプが点灯する
3 フロント＆リヤフォグランプが点灯する

手を離すと、の位置までもどります。
再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

● ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

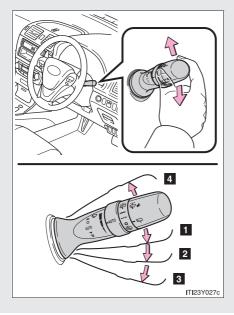
● フロントフォグランプ装着車のリヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

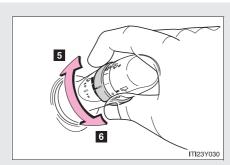
■リヤフォグランプについて

● リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

● 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

1 雨滴感知オート作動
2 低速作動
3 高速作動
4 一時作動

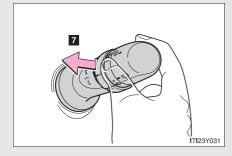
ITI23Y030

5 雨滴センサーの感度調整（高）

6 雨滴センサーの感度調整（低）

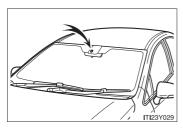
ITI23Y031

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■雨滴感知センサー

雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを **AUTO** にすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。
- ワイパースイッチを **AUTO** にしているとき、雨滴感知センサーの感度調整を高側へ調整すると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

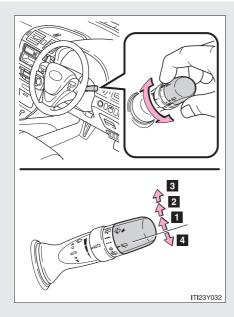
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

1 間欠作動

2 通常作動

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

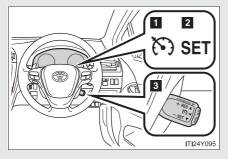
■リヤウインドウガラスが乾いているときは

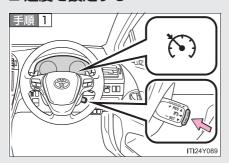
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

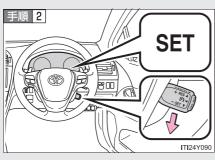
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

1 クルーズコントロール表示灯
2 クルーズコントロールセット表示灯
3 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

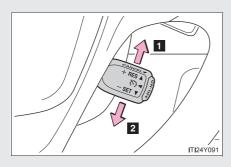
OFF にするには、再度スイッチを押します。

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内のクルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度をかえる

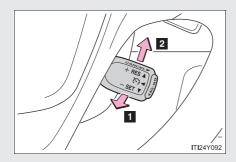
設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：
微調整：レバー操作するごとに約 1.6 km/h
調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または M の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●パドルシフトで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。

●車速は約 40km/h から約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

■定速走行中にクルーズコントロール表示灯が点滅し、警告メッセージが表示されたときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときはON-OFFスイッチでシステムをOFFにしてください

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

●車両けん引時

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

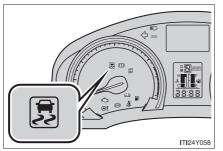
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS、TRC、VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

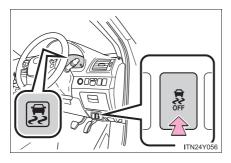
■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

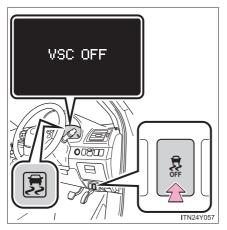
VSC・TRC が作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、前輪が空転したときは、VSC・TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRC を停止するにはスイッチを押す

スリップ表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時にスイッチを押し3秒以上保持する

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示され、スリップ表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

知識

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にすると、自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤ、またはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

⚠ 警告

■荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・トノカバー
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

- ・ エンジンオイル
- ・ 冷却水
- ・ ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P. 210）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

■ 運転するときは
ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは
パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて
取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- ●安全に作業できる場所で行う
- ●前 2 輪に取り付ける
- ●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

■寒冷地用ワイパーブレードについて
- ●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- ●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■**フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

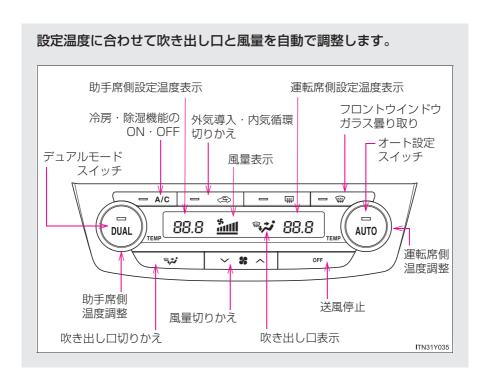
3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オートエアコンを使うには

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは AUTO を右にまわし、下げるときは左にまわす

運転席側と助手席側でそれぞれ独立した温度調整ができます。

お好みの設定で使うとき

■ 設定温度調整

運転席側の設定温度を上げるときは AUTO を右にまわし、下げるときは左にまわします。

助手席側の設定温度を上げるときは DUAL を右にまわし、下げるときは左にまわします。

デュアルモード（ DUAL の表示灯が点灯）： DUAL をまわすか、 DUAL を押すと、運転席側と助手席側でそれぞれ独立した温度調整ができます。

連動モード：（ DUAL の表示灯が消灯）： AUTO をまわすと運転席側と助手席側の温度が連動して調整できます。

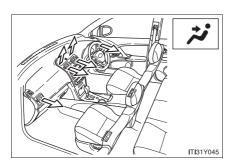
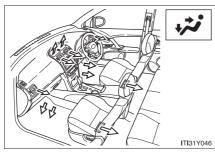
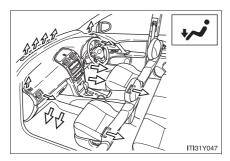
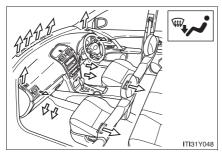
■ 風量の調整

風量をかえるには、 の “ ∧ ”（増）か “ ∨ ”（減）を押します。

風量は７段階で表示されます。

OFF を押すと停止します。

■ 吹き出し口の切りかえ

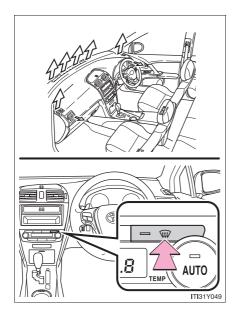
[ボタン] を押すごとに吹き出し口が切りかわります。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

■外気導入・内気循環を切りかえるには

[ボタン図] を押す

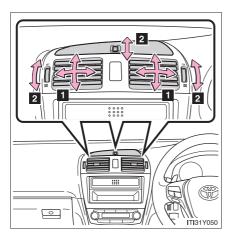
ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、[ボタン図] の表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

[ボタン図] を押す

エアコンが作動します。

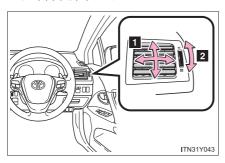
風向きの調整・吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

1 風向きの調整

フィンを動かして調整します。

2 吹き出し口の開閉

ダイヤルを操作して調整します。

▶ 左右吹き出し口

1 風向きの調整

フィンを動かして調整します。

2 吹き出し口の開閉

ダイヤルを操作して調整します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

● AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■フロントウインドウガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって、自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

A/C を押しても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口のため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

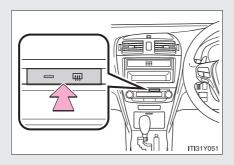
湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、[スイッチ]を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

ON ／ OFF を切りかえる

約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

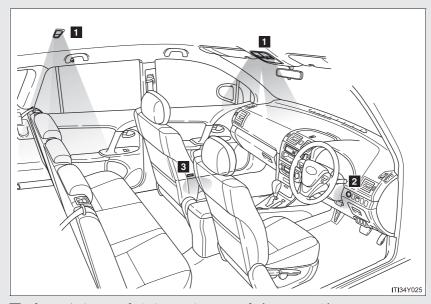
■ミラーヒーターについて

リヤウインドウデフォッガーを ON にすると、ミラーヒーターも同時に作動します。ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

警告

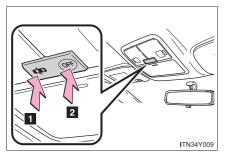
■ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が熱くなります。やけどをするおそれがありますのでふれないでください。

室内灯一覧

1 パーソナルランプ／インテリアランプ（→P. 176）

2 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明

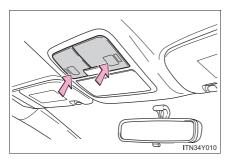
3 フロントドアカーテシランプ

メインスイッチ

1 ドアポジション

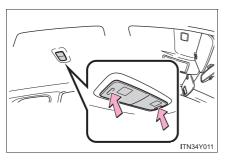
ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

2 OFF

パーソナルランプ／インテリアランプ

▶ フロント

ランプを点灯・消灯する

メインスイッチがドアポジションのときは、ドアの開閉によっても点灯・消灯します。

▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する

フロントランプのメインスイッチがドアポジションのときは、ドアの開閉によっても点灯・消灯します。

知識

■自動消灯機能

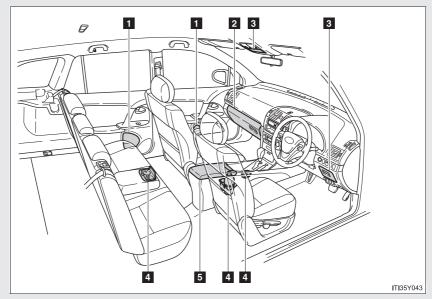
半ドア状態で、メインスイッチがドアポジションのときに、各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 311）

収納装備一覧

1 ボトルホルダー
2 グローブボックス
3 小物入れ
4 カップホルダー
5 コンソールボックス

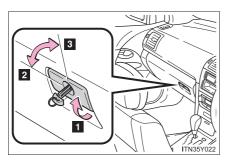
⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

グローブボックスはレバーを引いて開けます。メカニカルキーを使用して施錠・解錠できます。

1 開ける
2 施錠
3 解錠

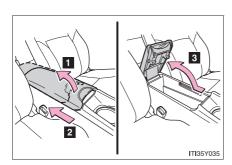
知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

1 レバーを引いてロックを解除する
2 アームレストをスライドする
3 レバーを引いて、アームレストを持ち上げる

⚠ 警告

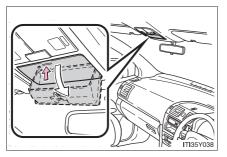
■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

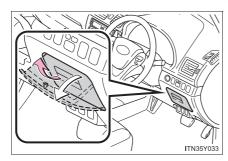
■コンソールボックスのフタをうしろにスライドさせたときは

フタの後端部分に手をついたりしないでください。不意にフタが開き、けがをするおそれがあります。

小物入れ

▶ オーバーヘッド部

フタを押して開ける

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

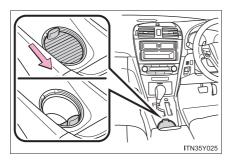
▶ 運転席側インストルメントパネル部

レバーを引いて開ける

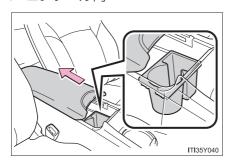
警告

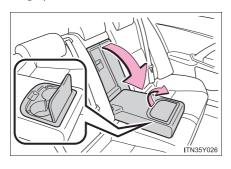
■走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いた小物入れに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

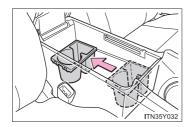
カップホルダー

▶ フロント

フタをスライドして開ける

▶ コンソール内

アームレストをスライドする

▶ リヤ

リヤセンターアームレストを引き出し、フタを開ける

知識

■コンソール内カップホルダーについて

カップホルダーをスライドさせて位置を調整できます。

警告

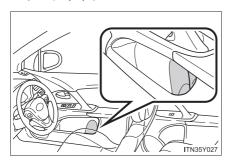
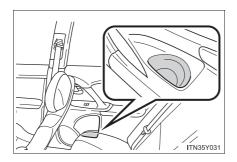
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

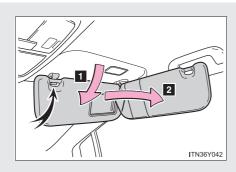
フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに開いたフタが体にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボトルホルダー

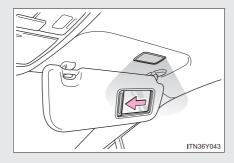
▶ フロントドア

▶ リヤドア

⚠ 注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーを開けて使用します。

カバーを開けるとランプが点灯します。

灰皿

ITN36Y044

フタの前部を押して開ける

取りはずすときは、本体左右を持って引き上げます。

警告

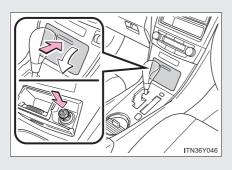
■**使用しないときは**

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**出火を防ぐために**

●マッチ・タバコなどの火は必ず消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター

フタを押して開き、シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

警告

■使用しないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

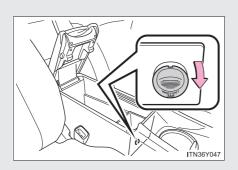
■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部にふれないでください。
- シガレットライターを押し込んだままにしないでください。
- 備え付けのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
  ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

アクセサリーソケット

12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

ITN36Y047

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

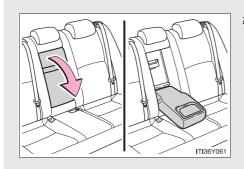
12V 10A をこえないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

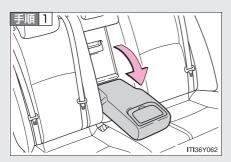
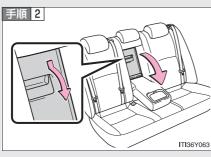
リヤセンターアームレスト

引き出して使用します。

注意

■リヤセンターアームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

ラゲージスルー

ラゲージルームからリヤ席にかけて長い荷物を収納することができます。

リヤアームレストを引き出す

ノブを引いて開ける

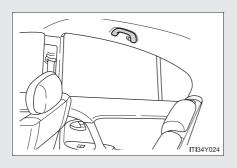
警告

■使用しないときは

ラゲージスルーを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などにラゲージルーム内のものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

ITI34Y024

⚠警告

■アシストグリップについて

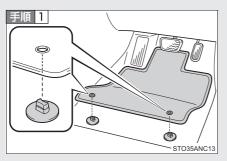
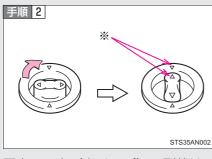
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △ マークを必ず合わせてください。

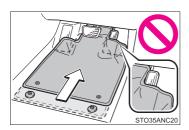
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

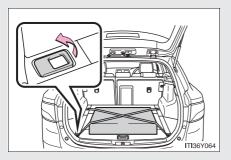
■運転席にフロアマットを敷くときは

- ●トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

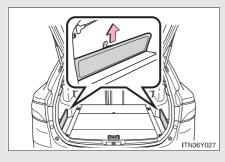
■運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

ラゲージルーム内装備

■ デッキフック

ITI36Y064

フックを使って、荷物を固定することができます。

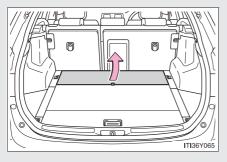
■ デッキサイドボード

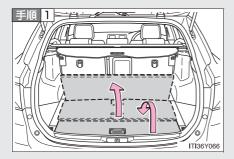
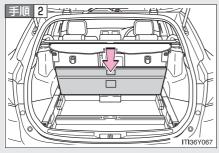
ITN36Y027

ラゲージルーム内の仕切りとして使用できます。

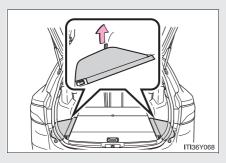
取りはずすときは、垂直に持ち上げ、取り付けるときは、溝に合わせて挿し込みます。

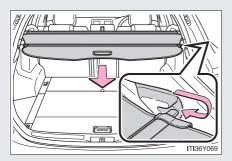
■ デッキアンダートレイ

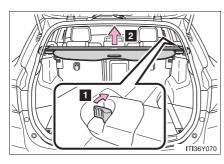
▶ 前部

ITI36Y065

前部デッキボードを持ち上げて開ける

▶ 後部

レバーを引き上げて、後部デッキボードを持ち上げる

後部デッキボードを押し込んで固定する

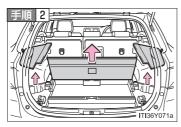
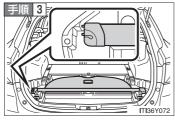
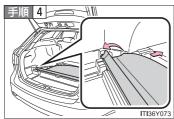
▶ 左右部

左右デッキボードをはずして開ける

■ トノカバー

カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける

トノカバーを取りはずすには

1 解除レバーを押してロックを解除する
2 持ち上げる

知識

■トノカバーを収納するには

手順 1 デッキサイドボードを取りはずす（→P. 195）

左右デッキボードを取りはずし、後部デッキボードを開ける

解除レバー側を左に向けて、デッキアンダートレイに収納する

トノカバーを傾け、カバー部を少し引き出す

警告

■トノカバーについて

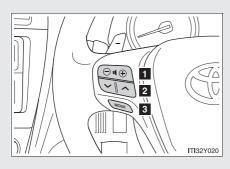
トノカバーの上には何も置かないでください。
急ブレーキや急旋回時などに、飛ばされたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ステアリングスイッチ

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

モードの切りかえや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。
販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取り扱い説明書を参照してください。

1 音量を調節する
2 CD、ラジオなどの操作
3 電源を入れる、モードを切りかえる

電源を入れる・OFF にする

を押す

スイッチを押し続けるとオーディオの電源が OFF になります。

装着されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

モードを切りかえる

電源が ON のとき

を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切りかわります。

音量を調節するには

 の＋または－を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調節できます。運転のさまたげにならない適度な音量でお聞きください。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

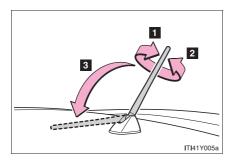
お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着することができます。

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ*受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■自動洗車機を使うときは

●ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●ワイパースイッチをAUTOモードにしているときは、洗車する前にOFFにしてください。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

⚠ 注意

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを取りはずしてください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などで、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に、乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。（→P. 73）
  電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

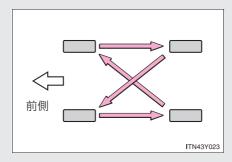
● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

標準タイヤ：

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm²)]	
	前輪	後輪
205/60R16　92V	240 (2.4)	220 (2.2)
215/55R17　94W	240 (2.4)	230 (2.3)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2) ※

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

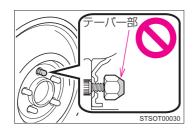
4
お手入れのしかた

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- ●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

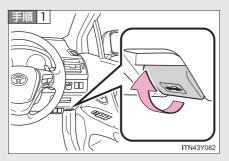
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

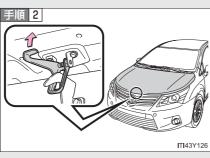
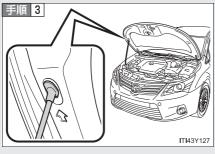
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

■ ボンネットを開けるには

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

■ ボンネットを閉めるには

手順 1 ボンネットステーをはずし固定する

手順 2 ボンネットを静かに下ろす

手順 3 ボンネットを閉める

ボンネットの前端を両手で押さえ付けロックします。

手順 4 ロックされていることを確認する

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

知識

■バッテリーを交換するときは

この車は欧州車用バッテリーを搭載しています。
欧州車用以外のバッテリーを使用すると、バッテリークランプが正しく取り付けられず、使用できません。バッテリー交換を行うときは、純正品と同等の欧州車用バッテリーを使用してください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットステーを使用するときは

ボンネットステーが確実にステー穴に挿し込まれているか確認してください。
確実に挿し込まれていないと、ボンネットが落下し重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ボンネットステーの損傷を防ぐために

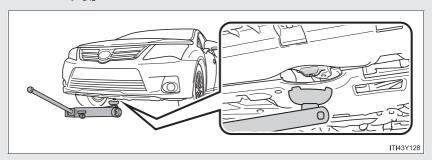
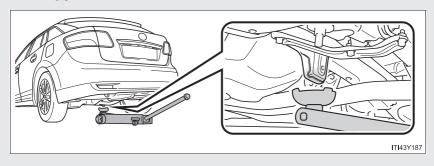
ボンネットを閉めるときは、ボンネットステーが確実にもとの位置に固定されているか確認してください。固定されずにボンネットを閉めると、ステーが曲がるおそれがあります。

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

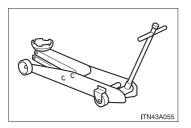
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■**車両を持ち上げるときは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ITN43A055

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取り扱い説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにする

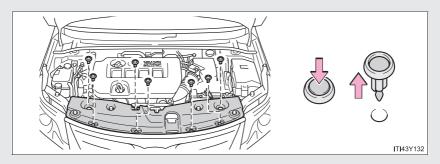
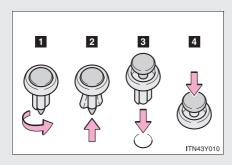
●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

エンジンルームカバー

電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

■ クリップの取り付け方

1. 中央部をまわす
2. 中央部を押し上げる
3. クリップを挿し込む
4. 中央部を押す

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあとしばらくのあいだは、部品などが熱くなっているため、やけどしないように注意してください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

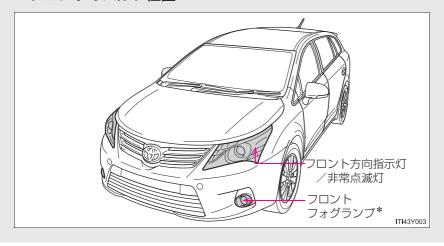
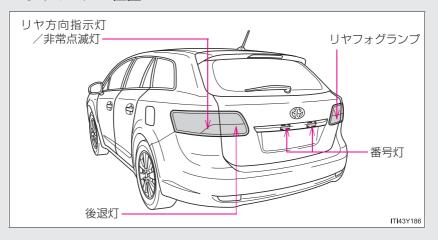
■ 電球の用意

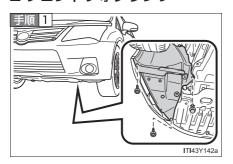
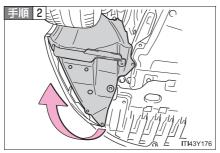
切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P. 309）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

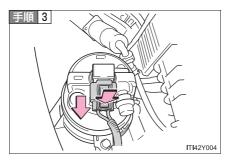
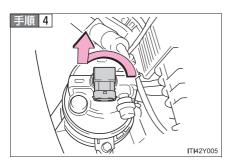
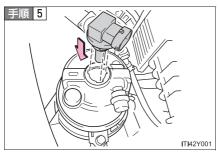
→P. 218

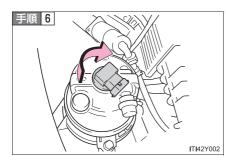
■ フロントのバルブ位置

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置

電球交換のしかた

■ フロントフォグランプ*

ボルトとクリップを取りはずす

フェンダーライナーをめくる

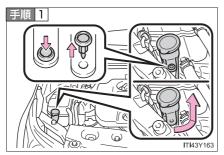
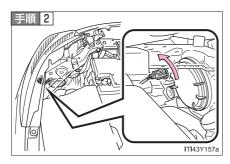
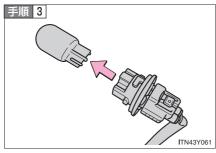
コネクターを引き抜く

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球を取りはずす

電球を交換し、取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込みます。

電球をまわして固定し、コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶって、ぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

手順 7 フェンダーライナーをもとにもどし、ボルトとクリップを取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

運転席側ではクリップをはずし、ウォッシャー液補給口の位置を移動する

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯／リヤフォグランプ

手順 1

ITI43Y146

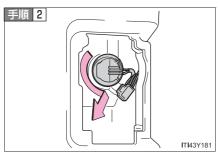
バックドアを開けて、カバーを取りはずす

手順 2

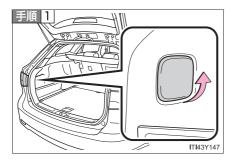
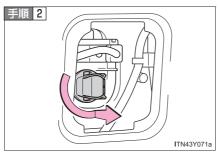
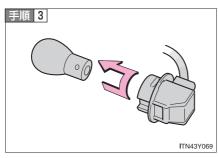
ITI43Y181

ソケットを取りはずす

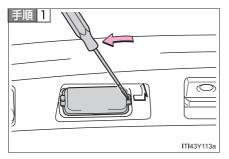
手順 3

ITI43Y179

電球を取りはずす

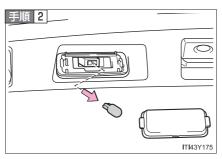
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

バックドアを開けて、カバーを取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

手順 1 カバーを取りはずす

カバーの穴に小さいドライバーなどを挿し込み図のように動かすと、カバーの片側がういてカバーがはずれます。

傷付きを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

手順 2 電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

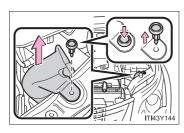
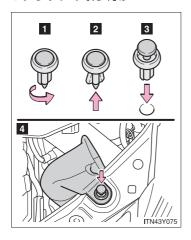
次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ● ヘッドランプ
- ● 車幅灯
- ● サイド方向指示灯／非常点滅灯
- ● ハイマウントストップランプ
- ● 制動灯
- ● 尾灯

知識

■助手席側のフロント方向指示灯／非常点滅灯を交換するときは

エアクリーナーダクト上部のクリップを取りはずし、エアクリーナーダクトをずらすと、バルブ交換作業がしやすくなります。バルブ交換後は必ず、エアクリーナーダクトとクリップをもとどおり取り付けてください。

●エアクリーナーダクトをずらすには

●クリップの取り付け

1 中央部をまわす

2 中央部を押し上げる

3 クリップを挿し込む

4 中央部を押す

■ディスチャージヘッドランプの作動

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

■LED ランプについて

車幅灯・サイド方向指示灯／非常点滅灯・ハイマウントストップランプ・制動灯・尾灯は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■電球を交換するときは

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ディスチャージヘッドランプについて

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

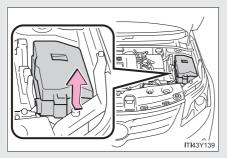
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

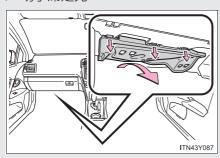
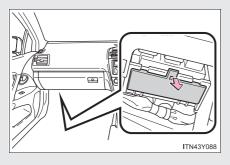
ヒューズの点検・交換

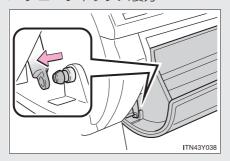
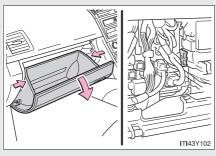
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

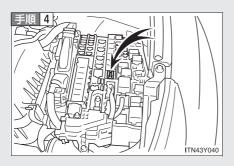
手順 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする

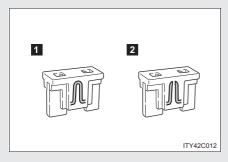
手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 助手席足元

グローブボックス下カバーを取りはずす

ヒューズボックスカバーを取りはずす

▶ グローブボックス後方

グローブボックスを開け、ダンパーをはずす

グローブボックスを左右から押して、ツメをはずし、取りはずす

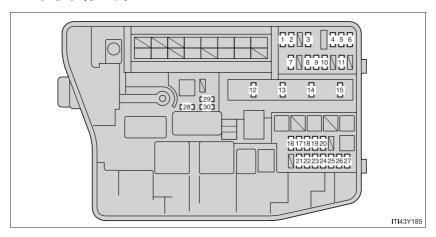
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 233)で確認する

ヒューズはずしを取りはずす

手順 5 ヒューズはずしを使用して、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

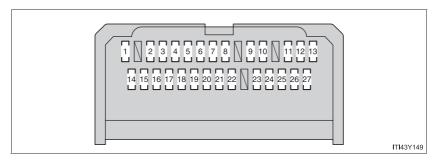
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

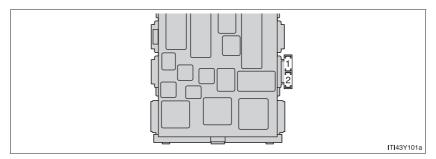
■ エンジンルーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	AMP	30 A	オーディオ
2	DOOR NO.2	25 A	パワードアロックシステム
3	ECU-B2	10 A	スマートエントリー&スタートシステム、エアコン、パワーウインドウ
4	ECU-B	10 A	メーター、メインボデー ECU、ステアリングセンサー、ワイヤレスリモートコントロール、スマートエントリー& スタートシステム
5	RAD NO.1	15 A	オーディオシステム
6	DOME	10 A	ラゲージランプ、バニティランプ、フロントドアカーテシランプ、パーソナル／インテリアランプ、パーソナルランプ
7	AM2 NO.2	7.5 A	始動システム
8	TURN-HAZ	10 A	方向指示灯 / 非常点滅灯
9	ETCS	10 A	電子制御スロットル
10	AM2	30 A	始動システム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
11	STRG LOCK	20 A	ステアリングロックシステム
12	IGT ／ INJ	15 A	EFI
13	EFI MAIN	20 A	EFI
14	HORN	15 A	ホーン
15	IG2	15 A	始動システム、メーター
16	PWR OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
17	PSB	30 A	—
18	FUEL OPN	10 A	給油口オープナー
19	FR DEICER	20 A	—
20	ABS NO.2	30 A	ABS、VSC
21	IG2 NO.2	7.5 A	始動システム
22	EFI NO.2	10 A	吸気システム、排気システム
23	EFI NO.1	10 A	EFI、エアフローメーター
24	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）
25	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）
26	H-LP RH LO	15 A	右側ヘッドランプ（ロービーム）
27	H-LP LH LO	15 A	左側ヘッドランプ（ロービーム）
28	SPARE	30 A	予備ヒューズ
29	SPARE	10 A	予備ヒューズ
30	SPARE	20 A	予備ヒューズ

■ 助手席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フォグランプ
2	ECU-IG NO.3	10 A	AFS、パーキングブレーキ、パドルシフトスイッチ、パワーステアリング
3	P FR DOOR	20 A	パワーウインドウ
4	RL DOOR	20 A	パワーウインドウ
5	RR DOOR	20 A	パワーウインドウ
6	SHADE	20 A	—
7	CIG	15 A	シガレットライター
8	ACC	7.5 A	電動ミラー、オーディオ、シフトロックシステム、メインボデー ECU、アクセサリーソケット
9	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
10	TI&TE	30 A	—
11	RR FOG	7.5 A	リヤフォグランプ
12	IGN	7.5 A	ステアリングロックシステム、SRS エアバッグシステム、EFI、スマートエントリー＆スタートシステム
13	METER	7.5 A	メーター
14	SEAT HTR	15 A	—
15	HTR-IG	10 A	エアコン
16	WIPER	30 A	フロントワイパー
17	RR WIPER	15 A	リヤワイパー

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
18	WASHER	15 A	ウォッシャー
19	ECU-IG NO.1	10 A	メインボデー ECU、スマートエントリー&スタートシステム、電動クーリングファン、シフトロックシステム、ABS、ステアリングセンサー、ヨーレート& G センサー、VSC システム
20	ECU-IG NO.2	10 A	後退灯、充電システム、非常点滅灯、リヤウインドウデフォッガー、助手席シートベルト非着用警告灯、エアコン、AFS
21	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
22	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップランプ、ABS、VSC、EFI、シフトロックシステム
23	DOOR	25 A	パワードアロックシステム
24	ACC-B	25 A	CIG、ACC
25	DRL	7.5 A	—
26	FR FOG	15 A ※ 7.5 A ※	フロントフォグランプ
27	AM1	7.5 A	始動システム、ACC、CIG、ECU-IG NO.2、HTR-IG、WIPER、RR WIPER、WASHER、ECU-IG NO.1、ECU-IG NO.3

※ヒューズを交換の際は、もとのヒューズと同じアンペア数のものをご使用ください。

■ グローブボックス後方

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	N/ST SW	5 A	ナビゲーションシステム
2	WIPER NO.2	7.5 A	充電システム

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 220)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- ●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- ●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

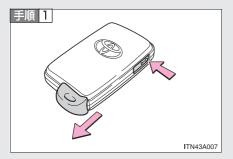
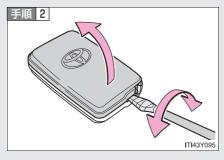
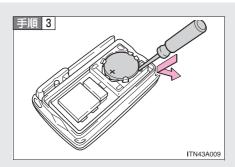
■ 用意するもの

● マイナスドライバー

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

● 小さいプラスドライバーなど

● リチウム電池 CR 1632

■ 電池交換のしかた

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

知識

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー&スタートシステムが作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR 1632 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

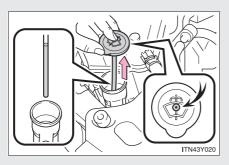
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

液面が低下したら、ウォッシャー液を補給する

キャップの中央部を指で押さえ、まっすぐに引き上げて、チューブの液面を確認します。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

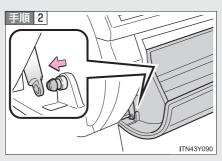
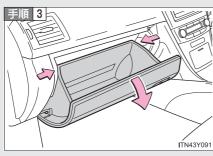
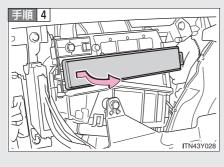
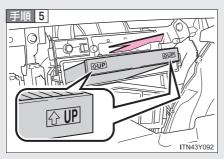
■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃・交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする

グローブボックスを開け、ダンパーをはずす

グローブボックスを左右から押してツメをはずし、取りはずす

フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km [7,500km ※] ごと
交換：30,000km [15,000km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

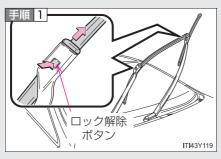
■エアコンを使用するときの注意

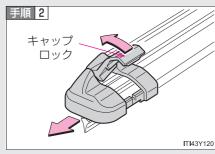
フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

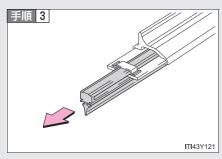
ワイパーゴムの交換

以下の手順に従ってワイパーゴムを交換してください。

▶ フロントワイパー

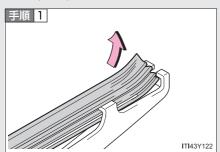
手順 1

ワイパーを立てた状態で、ワイパーブレードのロック解除ボタンを押し、ワイパーブレードを取りはずす

手順 2

ワイパーブレード先端のキャップロックを解除し、キャップを取りはずす

手順 3

ワイパーゴムを抜き取り、新品のゴムと交換する

手順 4 取り付けるときは、取りはずすときと逆の手順で取り付ける

▶ リヤワイパー

手順 1

ワイパーを立てた状態で、ワイパーゴムを抜き取り、新品のゴムと交換する

手順 2 取り付けるときは、取りはずすときと逆の手順で取り付ける

トラブルが起きたら

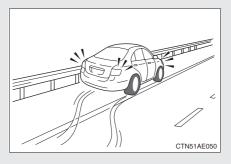
5

5-1. まず初めに

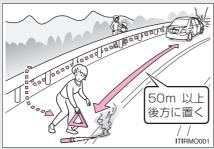
5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 249）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→P. 250）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

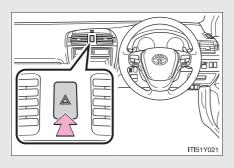
■停止表示板・停止表示灯について

ITIRMO004

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

ITI51Y021

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

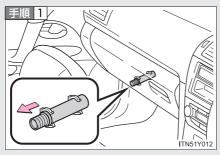
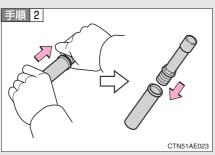
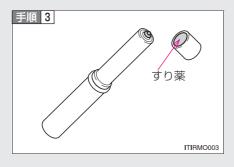
もう一度押すと消灯します。

知識

■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください。）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタをとり、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

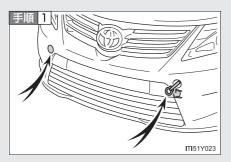
■発炎筒の取り扱いについて

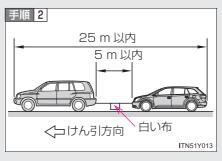
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m平方（30 cm×30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

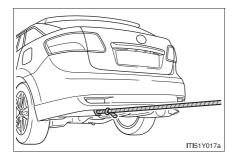
けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

けん引する前に

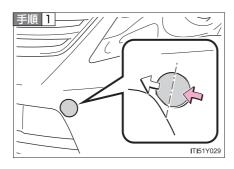
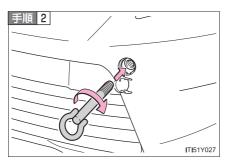
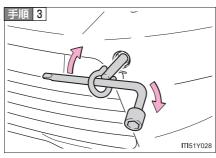
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

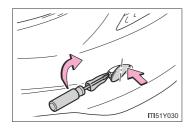
緊急時のけん引

ITI51Y017a

リヤの固縛用フックを緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

けん引フックの取り付け方

ITI51Y029

フタの外側を押してはずす

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックのフタがはずしにくいときは

マイナスドライバーを使ってフタをはずします。

車体へ傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 276

警告

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは、細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■けん引フックを車両に取り付けるときは

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■**車両の損傷を防ぐために**

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

■**長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

手順 1 " エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■ **エンジンを始動する前に**

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、システムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- ● エンジンの回転数
- ● 車速
- ● ブレーキペダルの操作状況
- ● アクセルペダルの操作状況
- ● トランスミッションのシフトポジション
- ● 助手席乗員の有無
- ● 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- ● エアバッグ作動に関する情報
- ● エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは、会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(赤色)	**ブレーキ警告灯** ・ブレーキ液の不足 ・電子制御ブレーキシステムの異常

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・トランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・電動パーキングブレーキシステムの異常
	パワーステアリング警告灯 EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
AFS OFF （点滅）	**AFS OFF 表示灯** AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常
	スリップ表示灯 VSC システム、TRC システムの異常
（点滅）	**クルーズコントロール表示灯**＊ クルーズコントロールシステムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 9 L 以下になった	燃料を補給する
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー） ※ 1 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）** ※ 1 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー） ※ 2 パーキングブレーキの未解除	パーキングブレーキを解除する
	マスターウォーニングライト システム異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージを表示（ブザーが鳴る場合もあります）	マルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージに従って適切に対処する

※ 1 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※ 2 **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー**
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

知識

■パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

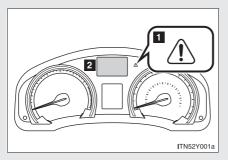
●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従ってご対処ください。

1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

対処後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
AT油温異常 (点滅)	**トランスミッションフルードの過熱** 安全な場所にお車を停めシフトレバーを P にして、警告メッセージが消灯するまでアイドリング状態にしてください。 警告メッセージ消灯後は再び走行することができます。
ステアリングロック システムチェック	**ステアリングロックシステムの異常**
ブレーキランプ システムチェック	**ブレーキランプ制御システムの異常**

警告メッセージ	警告内容
クルーズ システムチェック （点滅）	**クルーズコントロールシステム*の異常** 安全な場所にお車を停め、エンジンを再度かけ直してクルーズコントロールシステムを再セットしてください。
VSC システムチェック （点滅）	**TRC、VSC の異常**
パーキングブレーキ 動作できません （点滅）	**パーキングブレーキがかからない**

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
パーキングブレーキ チェック (黄色)	**パーキングブレーキシステムの異常**

ただちに処置してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときには ⚠ が点滅しブザーが鳴ります。	ドアを閉める
	バックドアが確実に閉まっていない バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときには ⚠ が点滅しブザーが鳴ります。	バックドアを閉める
パーキングブレーキを解除して下さい ⚠（点滅）	**パーキングブレーキが解除されてない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h をこえたときには警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する

警告メッセージ	警告内容	対処方法
パーキングブレーキ オーバーヒート (P)（点滅） ⚠（点滅）	**パーキングブレーキがオーバーヒートした**	パーキングブレーキの使用をひかえる システムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。
ライトが点灯 しています ⚠（点滅）	**ランプが点灯したままになっている**	ランプを消灯する

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが見つかりません （点滅）	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	キーが見つかりません （点滅）	“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする または電子キーを車内にもどす

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	連続音（10秒間）	キーが見つかりません 電源をOFFして下さい （交互に表示） （点滅）	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1回	なし	キーが見つかりません （点滅）	正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	Pレンジに入れて下さい （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがP以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする。 ・電子キーを車内に入れる
1回	連続音	車室内にキーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした 車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開きロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れて下さい (点滅)	・メカニカルキーで解錠して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したした際、車室内でキーを検出できなかった ・“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したときに車室内で電子キーを検出できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる
1 回	なし	始動時はPレンジに入れて下さい (点滅)	エンジン始動不可能なシフトレバー位置でエンジンを始動しようとしている	シフトレバーを P に入れてからエンジンを始動させる
1 回	なし	電源OFF時はPレンジに入れてエンジンスイッチを押して下さい (点滅)	シフトレバーが P もしくは N 以外で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたい場合は、シフトレバーを P にし“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

<table>
<tr><th>車内
警告
ブザー</th><th>車外
警告
ブザー</th><th>警告メッセージ</th><th>警告内容</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>なし</td><td>なし</td><td>バッテリー保護の
為自動電源OFF
しました</td><td>自動電源 OFF 機能が作動した</td><td>次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電する</td></tr>
<tr><td>1 回</td><td>なし</td><td>キーバッテリー
残りわずか</td><td>電子キーの電池残量が少ない</td><td>新しい電池と交換する
(→P. 239)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">なし</td><td rowspan="2">始動時はブレーキを
踏みながらエンジン
スイッチを押して下さい
（点滅）</td><td>“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからエンジンをかけずに “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードに 2 回以上した</td><td>ブレーキを踏んで “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す</td></tr>
<tr><td>電子キーが正常に働かないときのエンジン始動の方法で (→P. 292) “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに電子キーでふれた</td><td>ブザーが鳴ってから 10 秒以内に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す</td></tr>
</table>

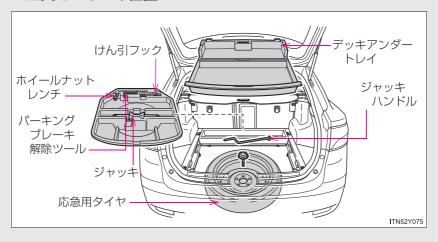
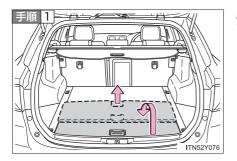
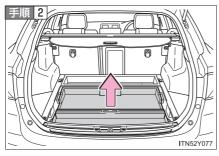
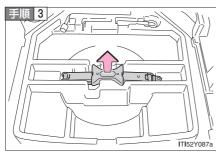
車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ステアリングロック未解除 (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながら “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

パンクしたときは

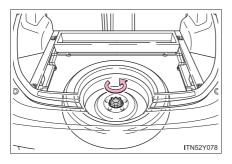
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 210 を参照してください)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

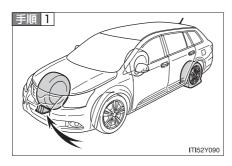
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

ジャッキの取り出し方

デッキボードを取りはずす

デッキアンダートレイを取りはずす

ジャッキを取り出す

応急用タイヤの取り出し方

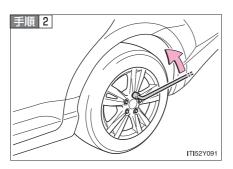
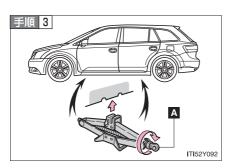
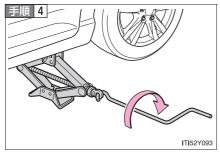
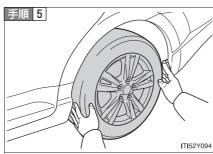
ITN52Y078

留め具を取りはずし、タイヤを取り出す

パンクしたタイヤの交換

ITI52Y090

輪止め※をする

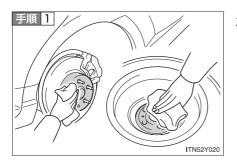
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ITI52Y091

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

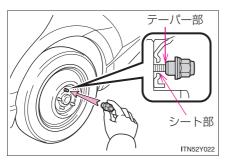
タイヤの取り付け

ITN52Y020

ホイール接触面の汚れをふき取る

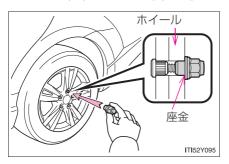
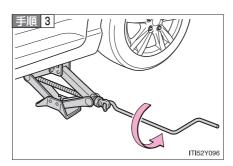
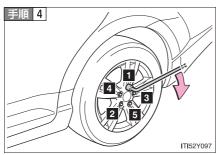
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ 応急用タイヤにかえるとき

ITN52Y022

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールにかえるとき

ITI52Y095

ナットの座金がホイールにあたるまで仮締めする

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。(→P. 308)

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する

手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■**応急用タイヤを使用するときは**

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■**応急用タイヤ装着中は**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- AFS
- クルーズコントロール*

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります

・ホイールの交換後は、すぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→P. 212)

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。
段差を乗りこえるときは注意してください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 111）や、ステアリングロックの解除（→P. 113）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 111）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 70）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 294）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 286）

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 294)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

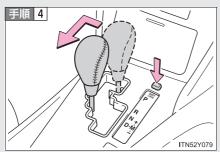
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

パーキングブレーキが解除できないときは

バッテリーがあがったときやパーキングブレーキスイッチを操作しても解除されないときは、次の手順で手動解除することができます。緊急時などでパーキングブレーキを解除する必要があるときのみ行ってください。

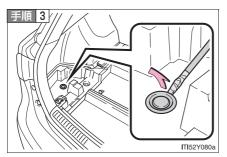
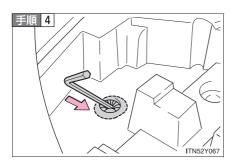
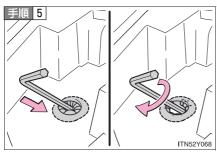
バッテリーが正常なときにスイッチ操作で解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 手動解除する前に

- シフトレバーを P に入れる
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めがある場合は輪止めをする

手動解除の方法

手順 1 パーキングブレーキ解除ツールをラゲージルームから取り出す
(→P. 276)

手順 2 左側のデッキサイドボードとデッキボードを取りはずす
(→P. 195)

手順 3 キャップを取りはずす

保護シールを取りはずすか、パーキングブレーキ解除ツールを挿し込んで破る

パーキングブレーキ解除ツールを押しあて、手を放してもはずれないよう挿し込む
カチカチと音がすることを確認しながら時計まわりにまわす
(約 600 回、20 分程度)

反時計まわりへまわすと、空まわりしますので、手を持ちかえずにまわせます。

パーキングブレーキを解除したあとは、パーキングブレーキ解除ツールをはずし、もとの場所に格納してください。

知識

■保護シールについて

保護シールが損傷したとき、または保護シールを紛失した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
万一、パーキングブレーキシステムに水が入ると、システムの交換が必要になる場合があります。

■手動解除について

パーキングブレーキを手動で解除することはできますが、手動でかけることはできません。

警告

■手動解除するときの警告

●パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずシフトレバーを P に入れて、輪止めがある場合は輪止めをしてください。
お守りいただかないと、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ず“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのときに手動解除を行うと、システムが作動して挿し込んだツールが回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■パーキングブレーキの手動解除について

●手動で解除を行うときは、完全に解除されるまでパーキングブレーキ解除ツールをまわしてください。
途中で作業をやめると、パーキングブレーキシステムの故障につながります。

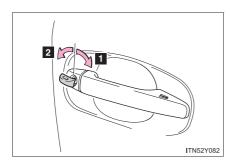
●解除を行うときは、パーキングブレーキ解除ツール以外を使用しないでください。他のツールを使用すると、解除用の穴部を破損したり、挿し込んだツールが抜けなくなるおそれがあります。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 23)

電子キーが正常に働かないときは

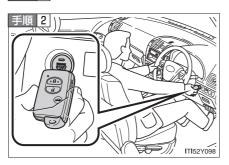
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 29）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 22）を使って、次の操作ができます。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

モードの切りかえ・エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

電子キーのトヨタエンブレム面で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“ エンジン スタート ストップ ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切りかえ：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。スイッチを押すごとにモードが切りかわります。

(→P. 112)

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にして“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

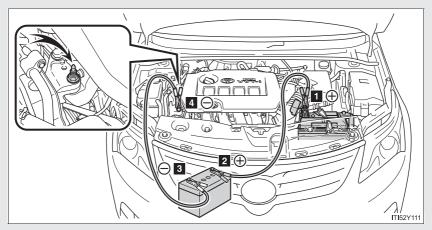
■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 239)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 3 “エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ”スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ランプなどの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚･衣服･車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

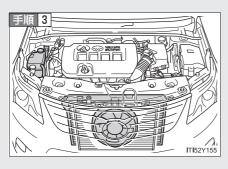
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

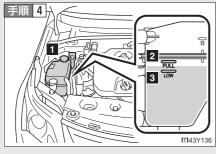
- 水温計（→P. 125）の表示が上端まで達したり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

手順に従って対処してください。

手順 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

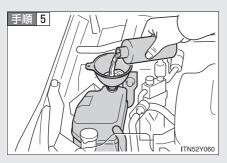
手順 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

多量の冷却水もれがある場合は、ただちに販売店に連絡してください。

冷却水の量がリザーバータンクの“ FULL ”（上限）と“ LOW ”（下限）の間にあるかを点検する

1 リザーバータンク

2 “ FULL ”（上限）

3 “ LOW ”（下限）

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は､エアコンをONにすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

手順 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りの販売店で点検を受ける

⚠警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●手や着衣（特にネクタイ、スカーフ、マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- ●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- ●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する

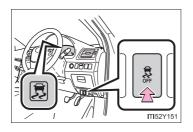
手順 2 前輪周辺の土や雪を取り除く

手順 3 前輪の下に木や石をあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■脱出しにくいときは

［TRC OFF スイッチ］を押して TRC を OFF にしてください。

警告

■**脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	60

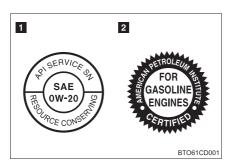
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SN 0W-20※2 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル　SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 10W-30	3.9	4.2

※ 1：エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

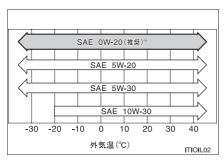
※ 2：0W-20 は、新車時に充填されている省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は、新車時に充填されている省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	6.2

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※ 1)
トヨタ純正 CVT フルード　TC	9.1

※ 1 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※ 2	58

※ 2 エンジン回転時に 490 N(50 kgf)の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

指定銘柄
タクティー ブレーキフルード J-4 ※ 3

※ 3 DOT4 をご使用ください。

V リブドベルト

項目	基準値 [mm]
たわみ量 ← オルタネーター ← ウォーターポンプ クランクシャフト → ← エアコン コンプレッサー ITN61Y007 押力 98 N(10 kgf) (冷間時)	7.6 ～ 10

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	205/60R16 92V	16x6 1/2J	240(2.4)	220(2.2)
	215/55R17 94W	17x7J	240(2.4)	230(2.3)
応急用タイヤ	T145/70D17 106M	17x4T	420 (4.2)	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（バルブタイプ：D4S）	35
	車幅灯	LED ※1
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	フロントフォグランプ（バルブタイプ：H11） （バルブタイプ：H16）	55 ※2 19 ※2
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	LED ※1
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	LED ※1
	後退灯	21
	リヤフォグランプ	21
	ハイマウントストップランプ	LED ※1
	番号灯	5
車内	パーソナル／インテリアランプ	8
	バニティランプ	8
	ドアカーテシランプ	5
	ラゲージルームランプ	5

※1 LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

※2 バルブを交換の際は、もとのバルブと同じタイプのものをご使用ください。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
ZRT272W	3ZR-FAE（2L ガソリン）	2WD（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td>スマートエントリー＆スタートシステム
(→P. 24)</td><td>スマートエントリー＆
スタートシステム</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="5">ワイヤレスドアロック
(→P. 36)</td><td>ワイヤレス機能</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（非常点滅灯）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>半ドア警告ブザー</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間</td><td rowspan="2">30 秒</td><td>60 秒</td></tr>
<tr><td>120 秒</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ドアロック
(→P. 40)</td><td>車速感応オートロック</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>運転席ドア連動オートアンロック</td><td>なし</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>シフト連動オートアンロック</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>シフト連動オートロック</td><td>なし</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>ランプ自動点灯・消灯システム
(→P. 138)</td><td>ライトセンサーの感度調整</td><td>レベル 3</td><td>レベル 1 ～ 5</td></tr>
</table>

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション（→P. 177）	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動	あり	なし
	解錠時の作動	あり	なし
	電子キーを携帯して、車両に接近したときの点灯（インテリアランプメインスイッチがドアポジションのとき）	あり	なし

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

せ

そ

た

ち

ね

は

ひ

ふ

症状別さくいん

■警告灯一覧

表示	名称	ページ
	ブレーキ警告灯（赤色）	P. 260
	充電警告灯	P. 260
	エンジン警告灯	P. 261
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 261
	ABS& ブレーキアシスト警告灯	P. 261
	電子制御ブレーキ警告灯（黄色）	P. 261
	クルーズコントロール表示灯（点滅）	P. 261
AFS OFF	AFS OFF 表示灯（点滅）	P. 261
	スリップ表示灯	P. 261
	パワーステアリング警告灯	P. 261
	燃料残量警告灯	P. 262
	運転席シートベルト非着用警告灯	P. 262
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	P. 262
	マスターウォーニング	P. 262

警告メッセージが表示された

P. 264 警告メッセージが表示されたときは

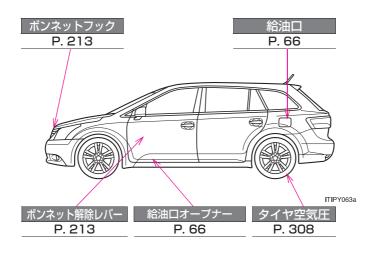
警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅をご確認ください。(→P. 260)

■警告灯が点灯・点滅していないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	エンジンを停止したとき	P. 33
	ドアを開けたとき	
	車外に出たとき	
	スマートエントリー＆スタートシステムで施錠したとき	
走行中	シフトレバーをRにしたとき	P. 118
	ブレーキを踏んだとき	P. 105

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 (参考値)	60L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） P. 67, 304
タイヤが冷えているときの空気圧	1 6インチタイヤ 前輪：240(2.4) kPa(kg/cm^2) 後輪：220(2.2) kPa(kg/cm^2) 1 7 インチタイヤ 前輪：240(2.4) kPa(kg/cm^2) 後輪：230(2.3) kPa(kg/cm^2) 応急用タイヤ: 420 (4.2) kPa (kg/cm^2)
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 :3.9L オイルとオイルフィルター交換時 :4.2L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・SN 0W-20（API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・SN 5W-20（API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・SN 5W-30（API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・SN 10W-30（API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30）

cＪ-2

M 20B68
01999ー20B68
ＩＩ-2012年４月12日
2012年４月19日 初版
アベンシス